

# Canon FT

使用説明書



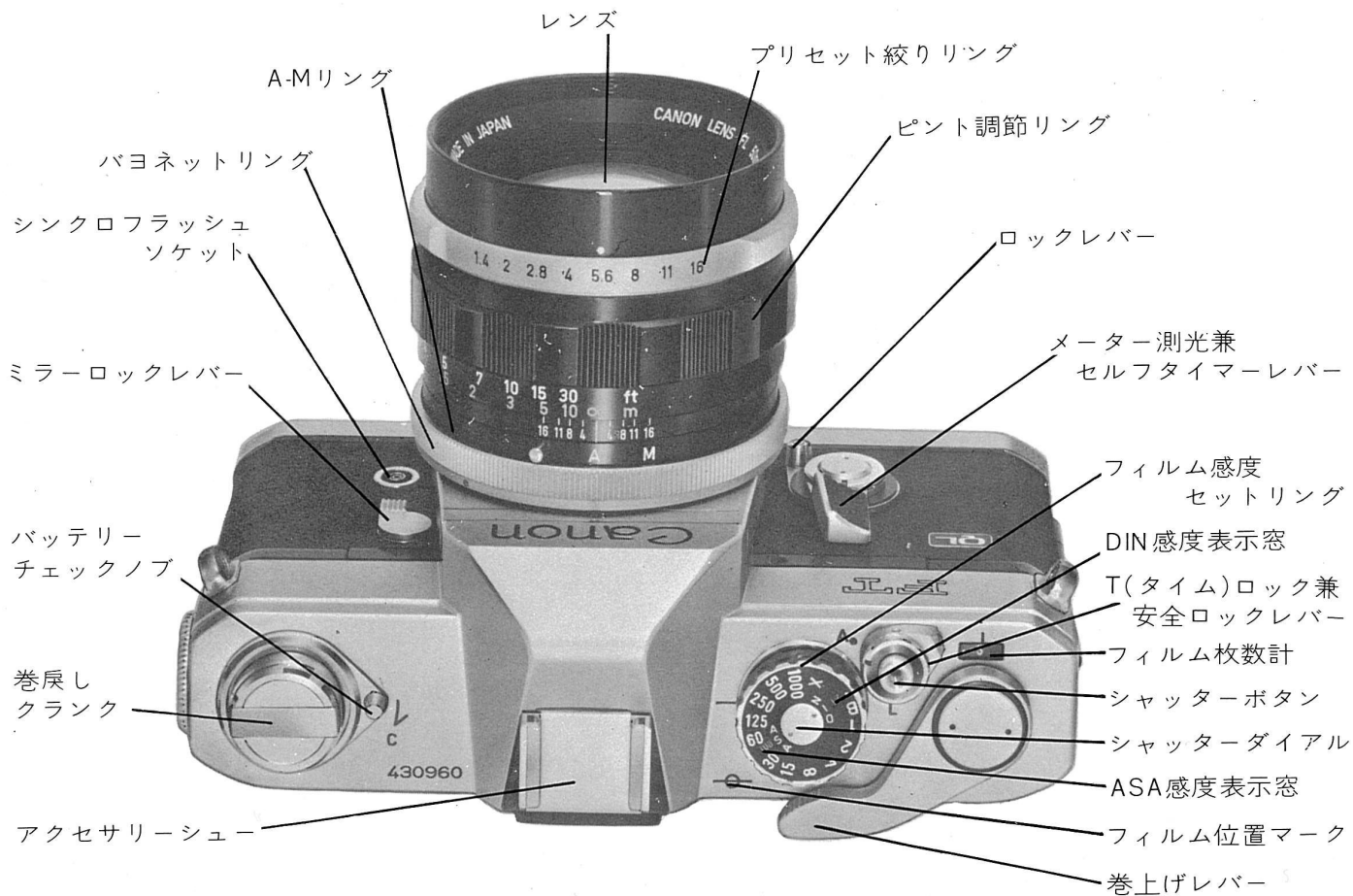
このたびはキャノン FT をお選びくださいましたまことにありがとうございます。  
キャノンは世界のカメラとして親しまれ、製品を通じて皆様の「楽しい生活」の実現にたゆまぬ努力を続けています。

つねに新しい時代の要求とセンスを反映した製品をお届けすることに心がけ、多年の経験に加えて独自の理論と生産技術を総合し近代的かつ合理的な生産方式で、材料から完成品まで一貫作業により製造を行っております。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行ハイキングに十分にご利用ください。

ご使用のはじめに

まず使用書をお読みいただき、各部の名称を覚え、操作も順を追って理解しましょう。



## キヤノンFTの主要性能

- 型 式：** 35mm フィルム用一眼レフレックスカメラ。
- ファインダー：** ペンタプリズム使用のアイレベル式。アングルファインダー A (旧ウエストレベルビューワー 2 型) 取付け可能。
- ピントガラス：** フレネルレンズ使用，特殊処理の高解像力性ピントガラス，プリズムスクリーン距離計内蔵。
- ミ ラ ー：** ノンショック クイックリターン式。ミラー上方固定可能。
- 標準レンズ：** FL 55 mm F1.2 FL 50 mm F1.4  
FL 50 mm F1.8 FL 50 mm F3.5
- 絞 り：** 完全プリセット自動絞り装置内蔵，プリセット解除可能。
- シャッター：** 倍数系列 1/1000～1秒等間隔目盛およびB(T)X，1軸不回転ダイアル フォーカル プレーンシャッター。
- 内蔵メーター：** シャッターダイアルと絞りに連動する新TTL式CdS メーター，ミラーコンデンサー使用。ASA 100 EV 2.5 (F1.2 1/4秒)～EV 18(F16 1/1000秒)のワンレンジ式，使用感度はASA 25～2000 1.3V 水銀電池1コ使用。JIS H-D型。
- 測 光：** セルフタイマー兼用のレバーにより行う。ロックレバーのロックにより連続測光が可能。
- 超低照度測光：** ブースター(超高感度補助メーター)の接続でEV -3.5～EV 2.5(ASA 100 F1.2 15秒～1/4秒)まで測光可能。1.3V 水銀電池2コ使用。
- バッテリーチェッカー：** 水銀電池用チェッカー内蔵。
- シンクロフラッシュ：** FP接点およびX接点。FP級，M級，MF級，スピードライトに同調可能。タイムラグ自動調整式。JIS B型ターミナル。
- 内蔵セルフタイマー：** シャッターボタンで始動する。
- 巻上げレバー：** 1作動174°回転レバー，小刻み巻上げ可能。
- フィルム装填：** キヤノンの開発によるQL機構を備えた簡易迅速装填方式。裏蓋開閉式。
- フィルム巻戻し：** 巻戻しボタンおよびクランクによる。
- フィルム枚数計：** 自動復帰順算式。
- 交換レンズ：** 自動プリセット絞り式FL系列各種。
- 大きさ・重量：** 144×93×43 mm/740 g。(ボディのみ)その他，各種安全装置，アクセサリ完備。

## 目 次

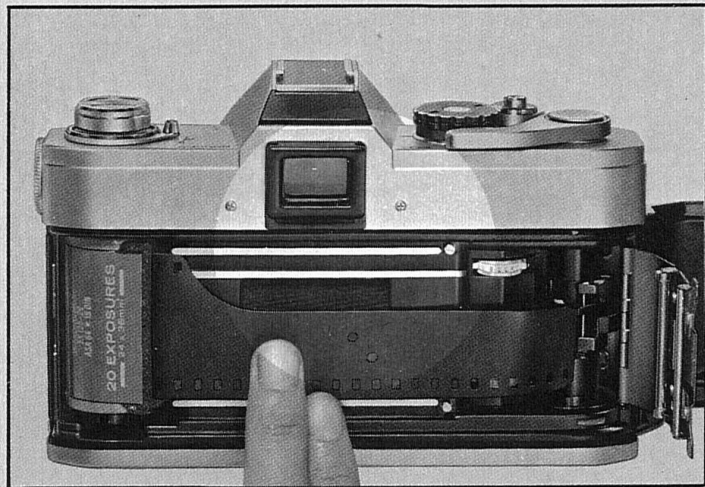
水銀電池のつめ方…………… 8 (バッテリーチェック)	フィルムのつめ方 (QL装填)……………24 (フィルムの感度表示, 正しいフィルム装填の 確認)
巻上げ……………10 (撮影枚数表示, シャッターの安全装置, レリ ーズの取付け)	フィルムの巻戻し……………28
シャッターと絞りの調節……………12 (シャッターダイヤル, レンズの絞り, 自動絞 りと手動絞りの使い方)	セルフタイマーと撮影……………29
TTL メーターの使い方……………16 (その準備)	フラッシュ同調……………30
メーター測光レバーとそのロック……………17	レンズの取扱い……………31 ＜レンズ交換, 距離目盛, 赤外指標R (赤外マ ーク), フィルム位置マーク, 被写界深度目盛, レンズマウント (FLレンズとRレンズ)＞
露出のきめ方1 (絞りで調節) ……18	ミラーの上方固定……………36
露出のきめ方2 (シャッターで調節) ……19	二重露出……………37
露出計の連動範囲……………20	フィルター……………38
ピントの調節……………21	カメラの保存と手入れ……………39
構図とファインダー……………22	FL 交換レンズ群……………40
カメラの構え方……………23	アクセサリ……………41
	キャノンブースターのおすすめ……………43

# 撮影手順

キャップをはずす



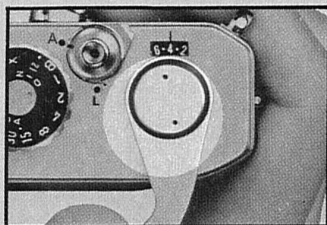
## 1 フィルムをつめる



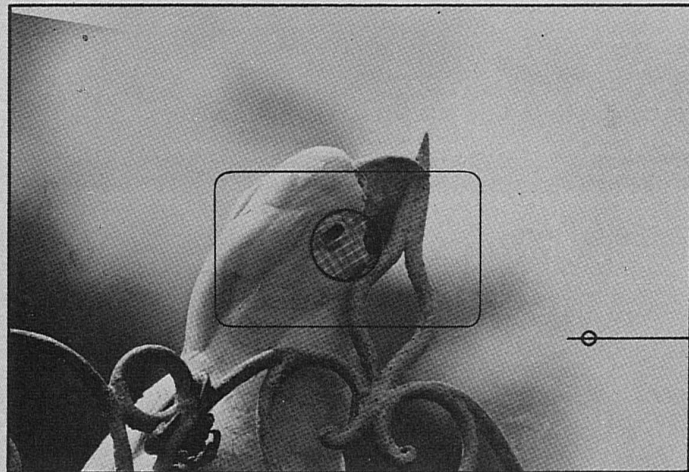
## 2 感度を合わせる



## 4 ファインダーを覗く

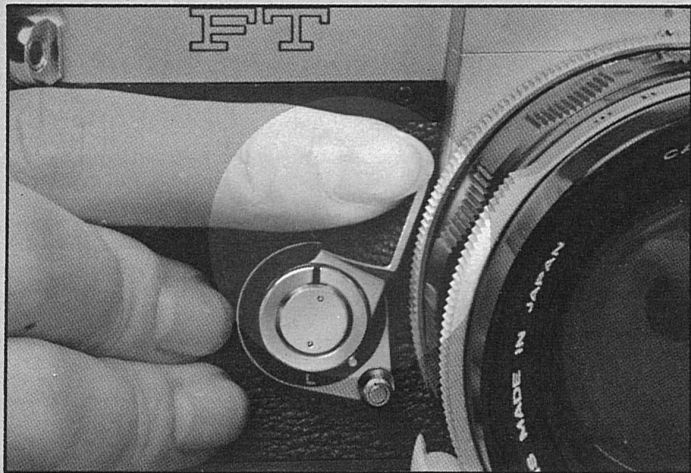


## 3 レバーを巻上げる

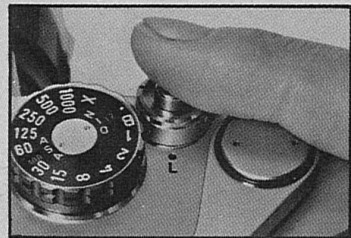


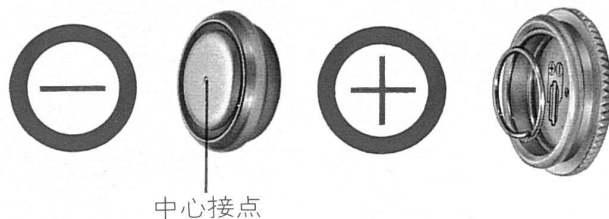
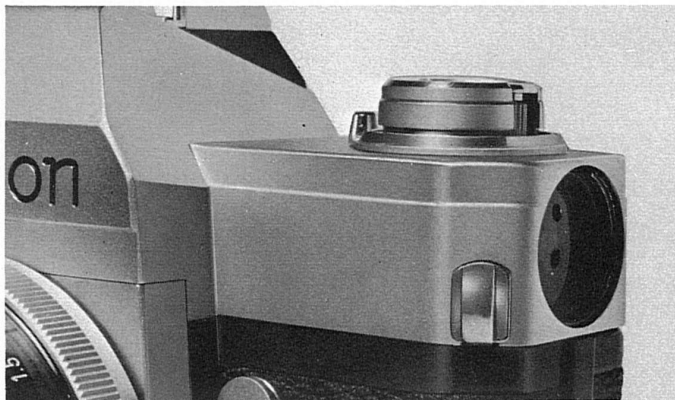
**5** ピントを合わせ 構図をきめる

**6** メーターで露出をきめる



シャッターボタンを押す





## 水銀電池のつめ方

別封の水銀電池を電池室につめてください。  
水銀電池は内蔵のCdSメーターの電源ですから、  
これを忘れるとメーターが作用しません。

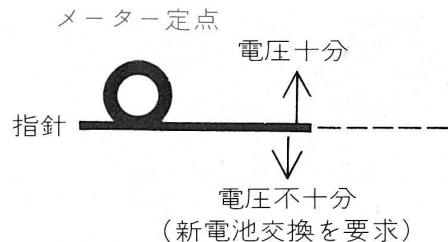
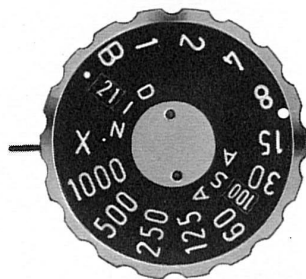
**1** 水銀電池室カバーのコイン溝を硬貨もしくは  
は指の腹で左回しに回してははずし、

**2** 水銀電池の中心接点のある方を奥に向けて  
押しこみ、カバーをねじこみます。

挿入のさい⊕⊖を間違えぬこと。逆に入れますと  
メーターが正しく作動しませんし、カバーもねじ  
こめません。

- 水銀電池はナショナル製 H-D 型が使用されており、米国の Mallory RM625R, Eveready E625N, GE No.625 に相当し、約 1 カ年の使用に耐えます。
- 汗や指紋をつけぬこと  
水銀電池は乾いた布でよく拭いてから入れてください。汗や指紋をつけると腐蝕の原因になり、殊に中心接点は汚れをさらいます。汚れたまま挿入しますとカメラの接点を損うおそれがありますから、十分ご注意ください。
- 長時間使用しないときは、水銀電池をはずして乾燥した場所へ保存しておいてください。





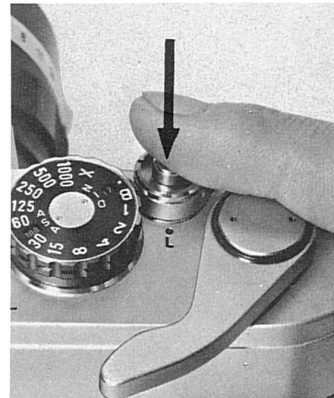
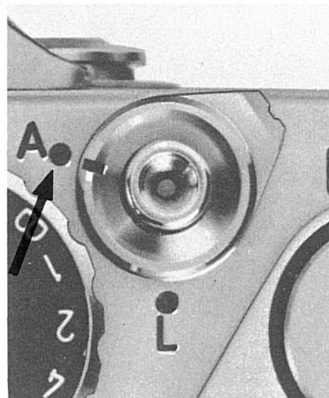
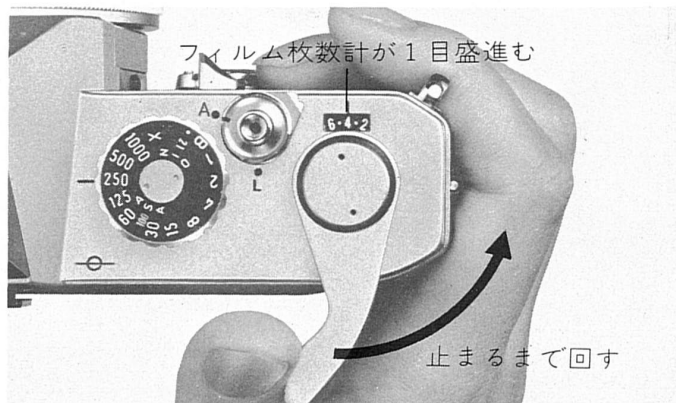
## バッテリーの点検

水銀電池を挿入したときには、必ずバッテリーをチェックしておきます。特に新しい電池と交換したときはその電圧を確かめることが必要です。

**1** シャッターダイアルの感度目盛を ASA100 にセットし、指標に X を合わせてください。感度の合わせ方はシャッターダイアル周辺のリングを、もち上げて回します (16頁)

● これ以外の目盛にセットすると正しいチェックができません。

- 2** 巻戻しクランク外側のチェックノブを回して先端を C 指標点に合わせます。
- 3** このときファインダー内のメーター指針が定点の丸印指標下弦よりも上方に振れば電圧は十分です。もし指針が定点よりも下方にあれば電圧不十分ですから新しい電池と交換してください。



## 巻上げ

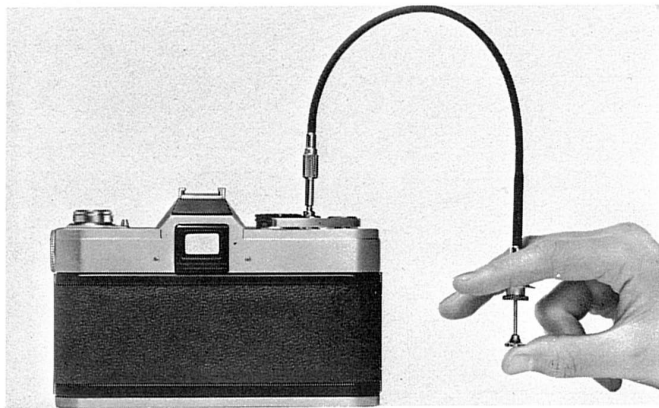
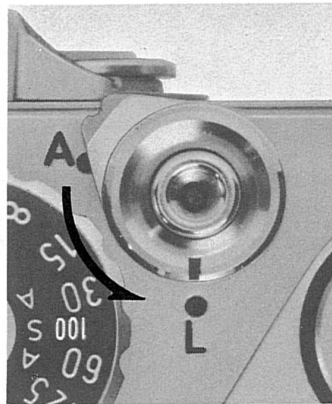
**1** 巻上げレバーはシャッターとフィルムの巻上げ、および絞りとミラーの作動チャージなど内部機構の巻上げを一回で行うものです。

**2** 巻上げレバーを完全に止まるまで回すとフィルムが1コマ分送られて、シャッターが巻上げられます。同時にフィルム枚数計も1目盛進みます。シャッターボタンを押すとミラーがはね上がり、同時にプリセット位置までレンズが絞られシャッターが作動します。

巻上げレバーは、シャッターの作動後、直ちに巻

上げできる状態になります。

- シャッターボタンの完全ロック指標をA位置にセットしてから巻上げてください。
- 巻上げは、レバーを小刻みに動かしてもできます。
- 巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合には、もう一度巻上げを確かめてください。
- フィルム装填後の、第1回目の巻上げのときレバーが空送りすることがありますから念のためもう一度巻上げてください。



### 撮影枚数表示

フィルムが1コマ巻上げられるごとにフィルム枚数計が1目盛進んでフィルムの撮影枚数をしさせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークSまで戻ります。

### シャッターの安全装置

シャッターボタンのまわりにある、安全ロックをLの位置に回すと、シャッターボタンはロックされて動きません。巻上げたままの携行にご利用ください。

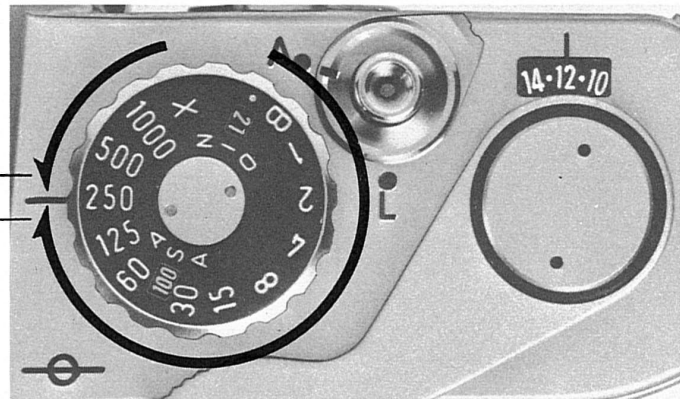
### レリーズの取付け

シャッターボタンには、レリーズがつきます。レリーズを取付けるにはレバーを巻上げる前に行ってください。

安全ロックレバーがLの位置にあってもレリーズを使う場合はシャッターが作動しますからご注意ください。

B, X間は指標に合わない

X で止まったら反対に回す  
B で止まったら反対に回す



## シャッターと絞りの調節

シャッターを開いてフィルムを光に与えることを露出または露光といいます。シャッターと絞りは、この露出の調節をするもので、シャッターは露出時間の調節を行い、絞りは光の量を調節します。

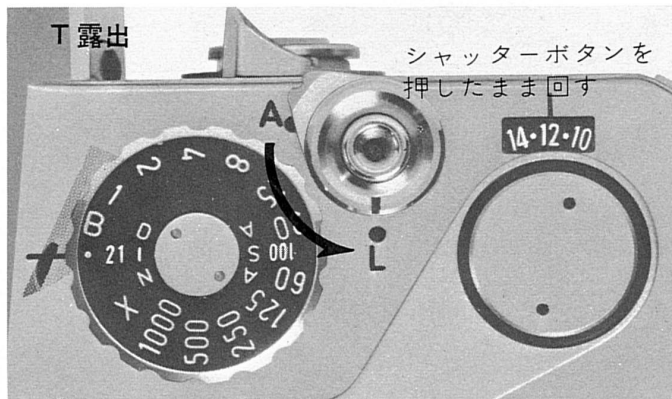
FT では定点式 TTL メーターを使用して、簡単に適正露出が得られます。

### シャッターダイヤル

これを回して、必要の目盛を指標に合わせるとスピード調節が行われます。

ダイヤル上の目盛は 1/1000 秒、1/15 秒などという場合の分母が目盛られています。

- X, B 目盛の間は回転できません。
- B はバルブ露出で、シャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから、1 秒以上の長時間露出に用います。
- 極長時間の T (タイム) 露出が必要なときは B にセットし、シャッターボタンを押したまま、T ロックレバーを回して指標を L に合わせてください。こうすると指を離しても露出が続けられレバーを A に戻すとシャッターがしまります。
- T 露出はロック付きリリースを利用することによってもできます。



- X目盛はスピードライトの同調用です。シャッター速度としては1/60秒ですが、実際にはスピードライトの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。
- 目盛のセットはカチッと止まるクリックストップのかかる位置で行ってください。とくにB目盛の場合は下の白点に合わせてください。

### レンズの絞り

プリセット絞りリングを回して必要な目盛を指標に合わせます。これによって光量調節や被写界深度の調節が行われます。

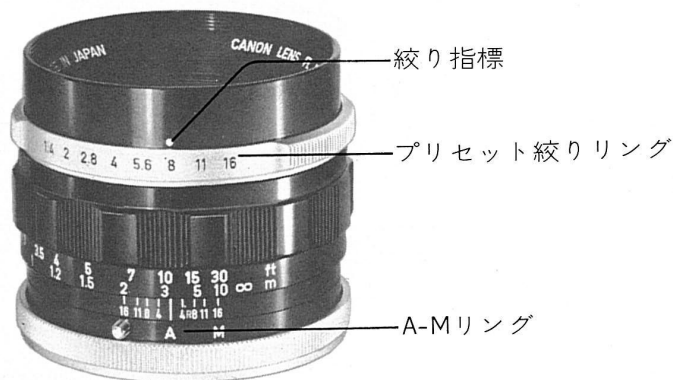
## 自動絞りと手動絞りの使い方

### • 自動絞り

FL 50mm F1.4 のようにA-MリングをもつレンズはA-MをAにセットします。

FL 85mm F1.8 のように手動絞りリングをもつ型式のものは手動絞りリングの指標を絞り目盛に合わせます。

以上の場合にはいずれも自動絞り機構がはたらきシャッターを切る瞬間だけ所定の絞り値まで絞り込まれ、あとは絞りが全開となります。



### ・手動絞り

A-MリングをもつものはA-MをMにセットし、プリセット絞りリングを回すことによって手動絞りとして使用できます。手動絞りリングをもつものは手動絞りリングを矢印側に動かすことで、プリセット絞り値まで絞りこむことができます。

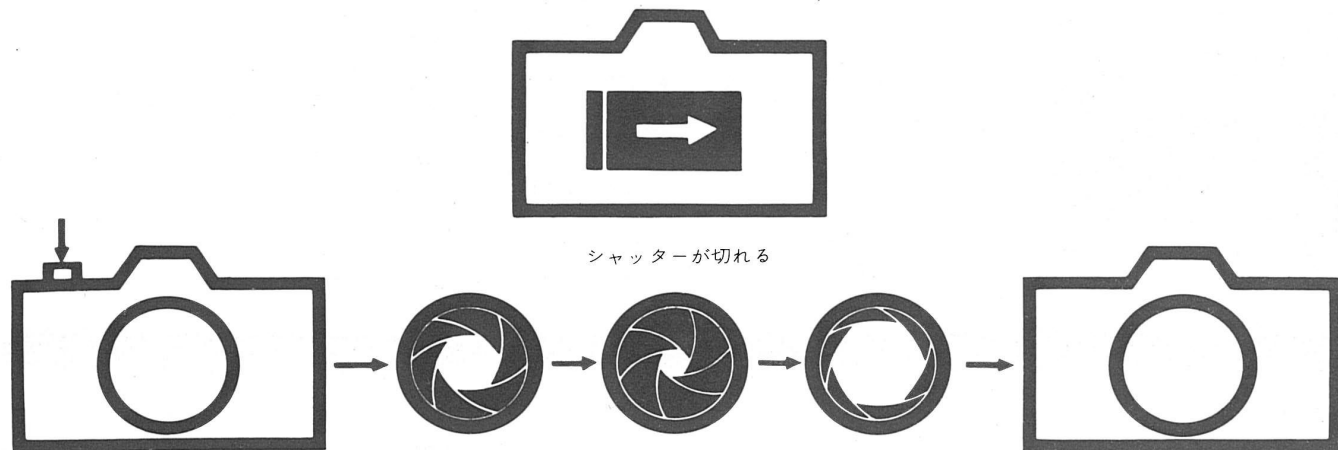
\*手動絞りは被写界深度(34頁参照)の確認や接写、拡大などの特殊撮影時に用います。

\*プリセット絞りリングが開放のときは、手動絞りリングを動かさないでください。

- 絞りは、その数値が大きくなるにしたがって暗くなり、目盛の一段ごとに明るさが半分になるようになっています。絞りを1目盛絞りこんだときは露出時間を2倍にし、2目盛絞りこんだときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の間も用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りとつぎの絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係にないものもあります。
- 絞り目盛と露光量の比率はF2を基準としてつぎの通りです。

絞り値		絞り値										
1.2	1.4	1.8	2	2.8	3.5	4	5.6	8	11	16	22	
露出比		露出比										
3	2	1.25	1	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$	$\frac{1}{32}$	$\frac{1}{64}$	$\frac{1}{128}$	

# ミラーと絞りとシャッターの関係



シャッターが切れる

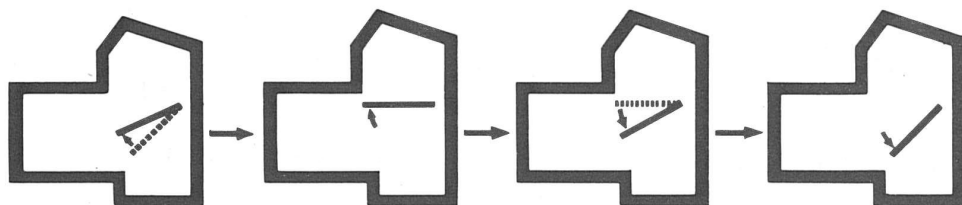
シャッターボタンを押す

絞りが閉じはじめる

プリセット位置まで絞られる

絞りが開きはじめる

撮影完了

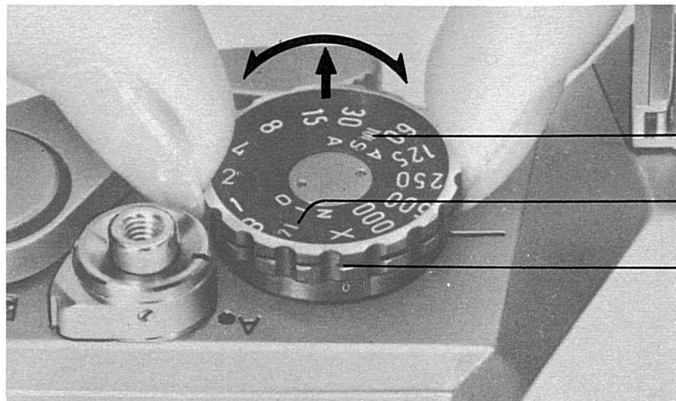


ミラーが上りはじめる

ミラーが上る

ミラーが下がりはじめる

ミラー正位置に復帰



ASA 感度表示窓

DIN 感度表示窓

外側の感度セツtringを  
持ち上げて回す

## TTLメーターの使い方

キヤノン FT のメーターはシャッターダイヤルと絞りに連動する TTL 定点式で、被写体の明るさに応じてつねに適正露出の撮影が簡単に行えます。

露出のきめ方にはシャッターを先に選ぶ場合と、絞りを先に選ぶ場合の 2 通りありますが、いずれにもなれることが、よい写真を写すために必要です。その準備（フィルム感度のセツ）

使用フィルムの感度を小窓に出します。それにはシャッターダイヤル周囲の感度セツtringをつまんで持ちあげて回します。フィルムが SS なら ASA の小窓に 100 を出し、落としこんでセツします。

● 小窓に ASA 25 が出たときは、それ以上左へ回せません。逆に 2000(・)が出たときは右へ回せません。

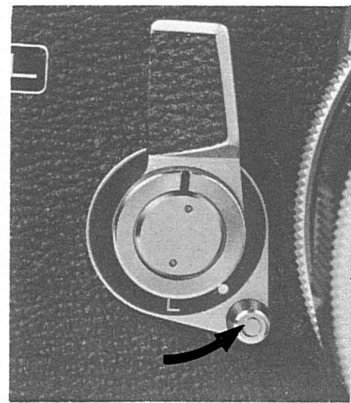
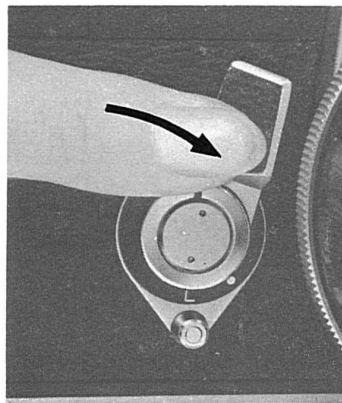
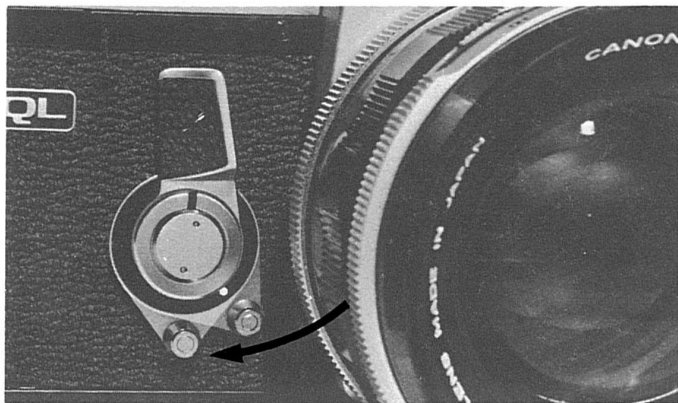
● 使用できるフィルム感度

	(32)	(40)	(64)	(80)	(125)	(160)	(250)	(320)	(500)	(640)
ASA	25	• •	50	• •	100	• •	200	• •	400	• •
DIN	15	• •	18	• •	21	• •	24	• •	27	• •
	(16)	(17)	(19)	(20)	(22)	(23)	(25)	(26)	(28)	(29)

	(1000)	(1250)	(2000)	● フィルムの感度は外
800	• •	1600	•	装箱か説明書に明示
30	• •	33	•	されています。
	(31)	(32)	(34)	

カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。



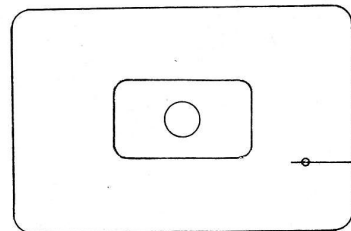
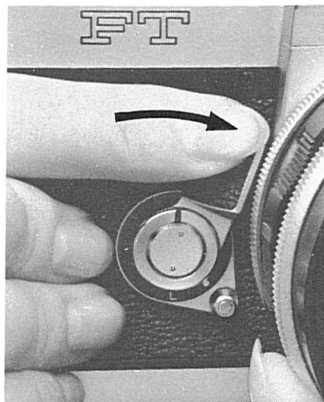
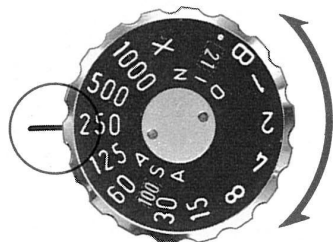


## メーター測光レバーとそのロック

このメーターは絞込み方式で、測光レバーを押し込むと、プリセット位置まで絞込まれ露出が測れます。従って測光時には必ずレバーを用いてください。測光レバーを押ししたままロックレバーのつまみをL指標方向(ロック位置)に移動させると測光レバーは固定されます。


- はじめにロックレバーのつまみをL指標に位置させ、測光レバーを押し込んでもロックされません。

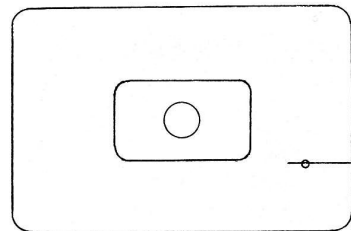
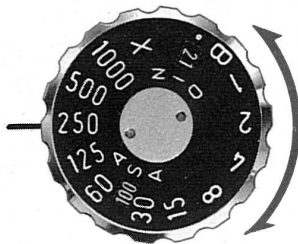
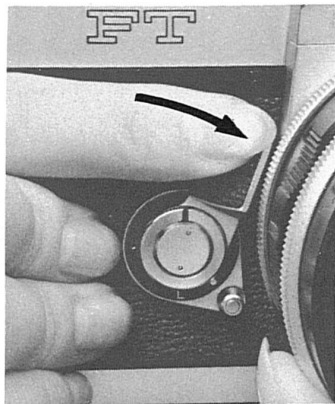
- 測光レバーをロックすることによりレバーを押し出す操作から解放されます。ことに長い焦点距離をもつ交換レンズの使用時に便利です。また照度の異なる被写体の撮影には連続的かつ迅速に測光ができます。
- 測光レバーをロックしたままシャッターボタンを押してもさしつかえありません。



## 露出のきめ方1.(絞りで調節)

- 1 シャッタースピードをセットします。
  - 2 カメラを被写体に向けてファインダーをのぞき、測光レバーを押します。
    - レバーはストップするまで十分に押すこと。
  - 3 そのままプリセット絞りリングを回して、ファインダー内の定点にメーター指針を合わせる。適正露出にセットされます。
    - キヤノン FT は、内蔵メーターの受光部をミラーコンデンサーの極近位置に置いたキヤノンの誇る新TTL方式を採用しているため、きわめて正確な測光ができます。
- 測光レバーロック (17頁参照)

- ファインダー内のプリズムスクリーン外側にある  枠は CdS 受光部と同一の面積になっており、この枠内に被写体の中心となる部分を置く測光方式で、つねに撮影者の作画意図を生かした露出の決定ができます。したがって従来の露出計ではむずかしかった逆光時の露出決定などにも大きな威力を発揮します。
- シャッターダイヤルの B 目盛、X 目盛での測光は意味がありませんから用いないでください。B は 1 秒以上の長時間露出、X はスピードライト用ですから露出計では測定できません。
- 逆光時には必ずレンズフードをご使用ください。



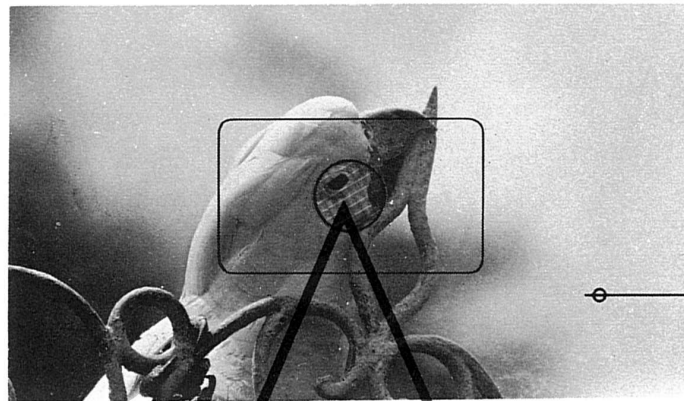
## 露出のきめ方2.(シャッターで調節)

- 1 レンズの絞りを、使いたい絞り値にセットします。
  - 2 カメラを被写体に向けてファインダーを覗き測光レバーを押込みます。
  - 3 そのままシャッターダイヤルを回して、ファインダー内の定点にメーターの指針を合わせると適正露出にセットされます。
- シャッターダイヤルは目盛の中間が使えませんが、絞りは目盛の中間も連続的に利用できます。露出を厳格に考える場合はシャッタースピードを先に決め、これに応じて絞りを加減するのが最も合理的といえましょう。

- メーター使用中、明るさの変化によって針の動きが鈍る場合がありますが、CdSの特性によるものですから心配ありません。
- 被写体の明るさが極端に明るいとき、あるいは暗い場合は、メーター指針が上または下に振り切れて測光できません。またシャッタースピードを測光範囲外の低速度にセットしたまま放置しておくと、消費電流量が大きく、電池の消耗をはやめますから、必ず適正スピード内に戻してください。カメラを使わない場合も同様の注意が必要です。
- 測光レバーを押し忘れると、絞り開放時の測光値となるため、プリセット絞りに対して露出不足になりますからご注意ください。

## 露出計の連動範囲

フィルム感度	シャッタースピード																
ASA 25 DIN 15							1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000
ASA 50 DIN 18						1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000	
ASA 100 DIN 21					1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000		
ASA 200 DIN 24				1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000			
ASA 400 DIN 27			1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000				
ASA 800 DIN 30		1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000					
ASA 1600 DIN 33	1	1/2	1/4	1/8	1/15	1/30	1/60	1/125	1/250	1/500	1/1000						
	←メーター測光範囲外→						←測光範囲→										←測光範囲外→



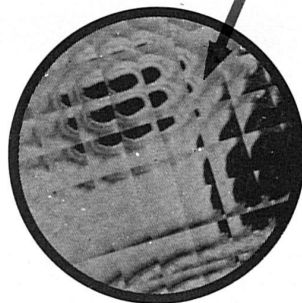
## ピントの調節

ファインダーを覗きながら、レンズのピント調節リングを回します。

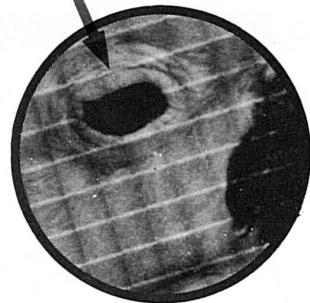
ファインダー視野中央の円型内の像が一致したときピントが合い、くずれたときピントがはずれます。

・視野中央の円型は、微細な特殊プリズムを合成した焦点調節スクリーンです。ピントが合っていないときは像が極端にくずれて見えます。ピントが合ったときは、円型内の像と同一程度の距離にある被写体は円型外の視野内でも同じく鮮明に見えます。

したがって平面的な被写体の場合には円型外のマツガラス面上でもピント合わせを行うことができます。



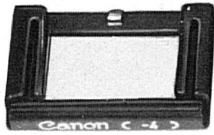
ピントがはずれている



ピントが合っている

● 光線の状態によってファインダー下方に左右に走る輝線がみえることがあります。

これはミラーコンデンサーの接合面によるもので、なんら支障はありません。むしろキャノン FT の優れた新測光方式によるものをご理解ください。

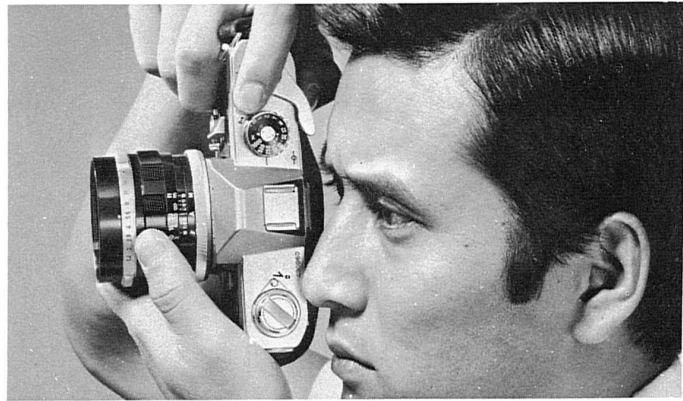
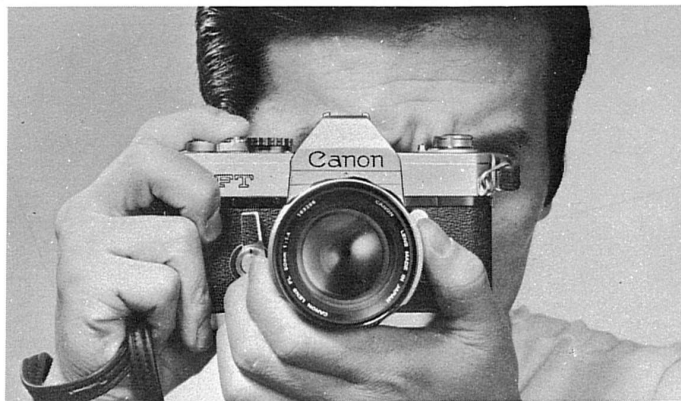


## 構図とファインダー

●ファインダーには視度補正レンズが用意されており、これを接眼部に取付けると近視や遠視眼の方が眼鏡なしで鮮明な被写体像を見ることができます。

+1.5 0 -2.5 -4 (ジオプター) の4種

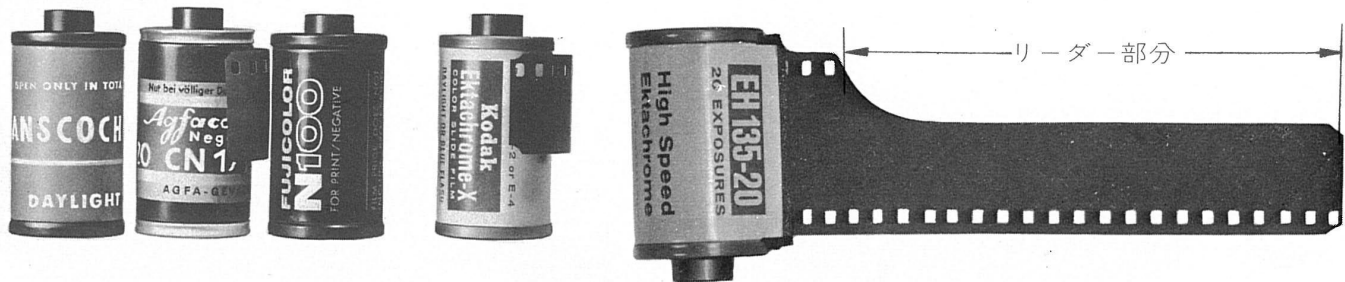
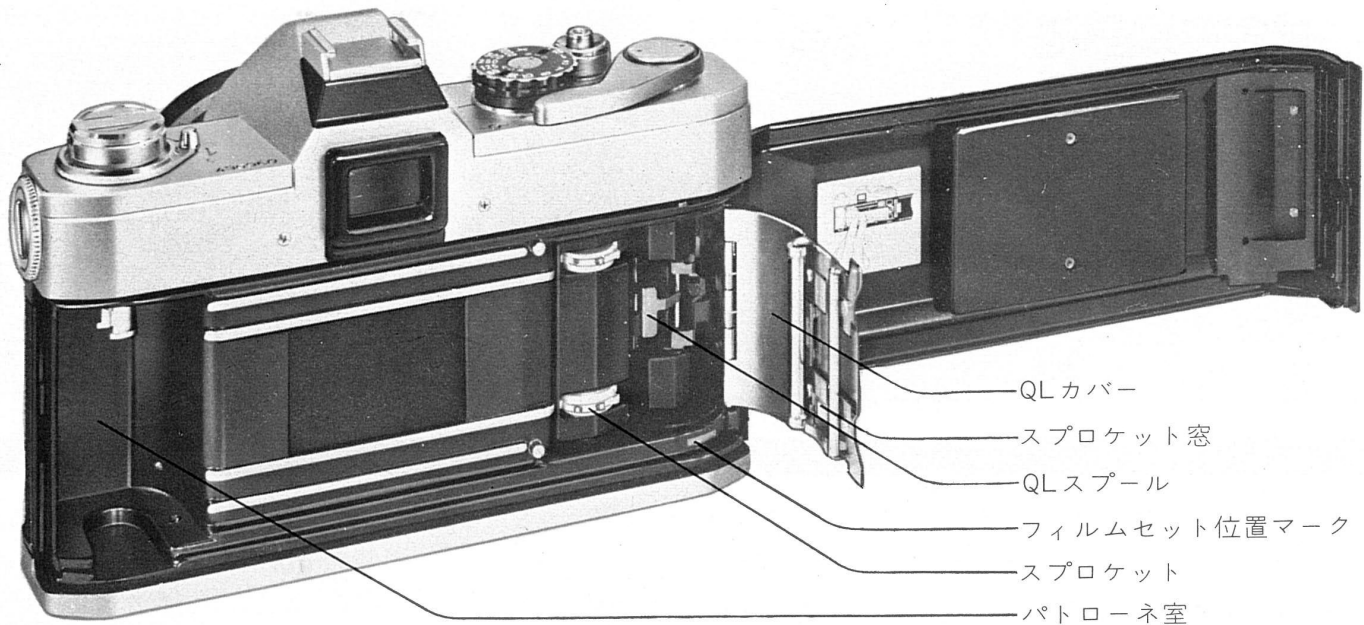
●接眼部にはアングルファインダーA (旧ウエストレベルビューワー2型) が取付けられますが、この場合の像は左右反対像となって見えます。上から覗けますから複写・拡大・顕微鏡写真撮影などに用いると有利です。



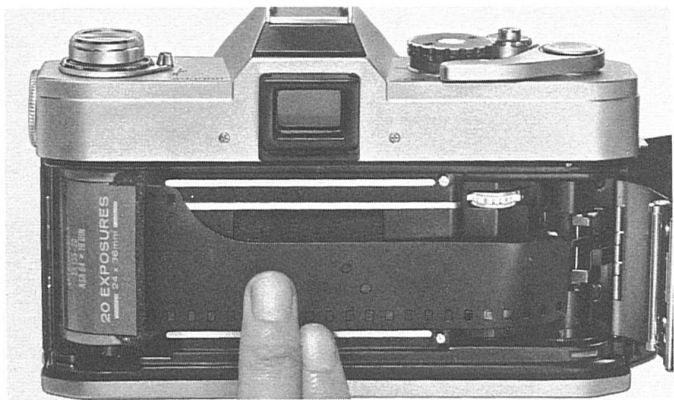
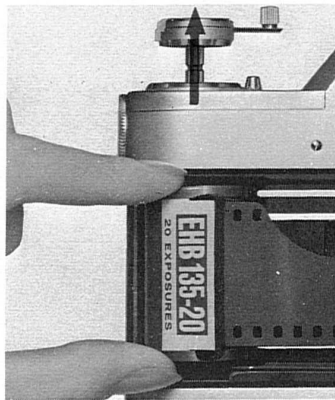
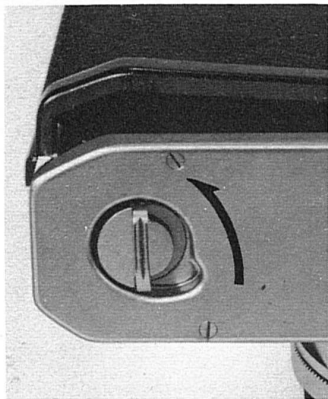
## カメラの構え方

撮影の際カメラを確実に構えることは鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ファインダーを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。その際、特に次のことが大切です。

- 1 両手は努めて深くカメラを握り込むこと。
  - 2 カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
  - 3 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること。
- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
  - 撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。特にスローシャッターを切るときはこの点にご注意ください。







## フィルムのかめ方 (QL装填)

使用フィルム：市販の日中装填用パトローネ入り35mm フィルムをご用意ください。装填の際は直射日光下を避けてのお取扱いをおすすめします。

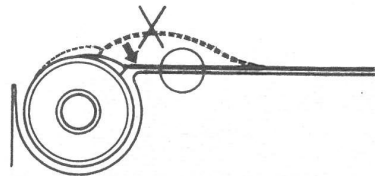
### 1 裏蓋を開きます

開閉つまみを引起して左回しに半回転すると裏蓋が浮上ります。

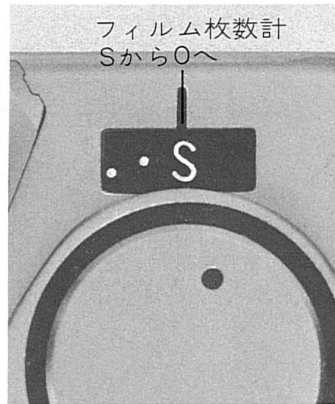
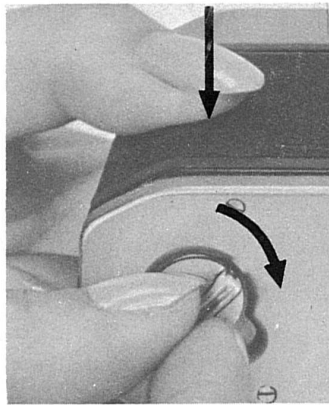
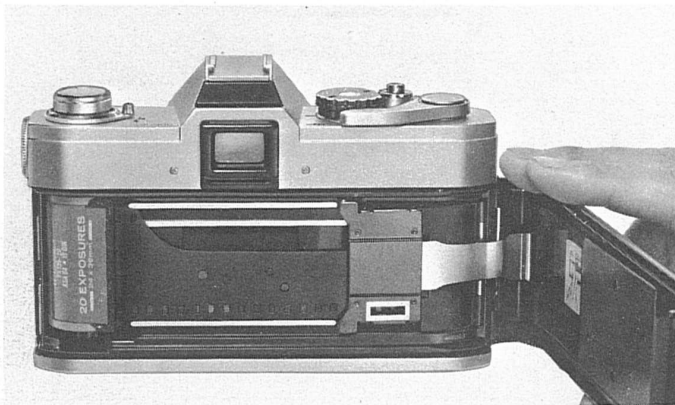
### 2 パトローネを入れます

裏蓋を開き、巻戻しフォークを親指で十分に押し上げます。パトローネを収めたならば巻戻しノブを押し下げ、元の位置に戻します。この操作で巻戻しフォークはパトローネ軸に差込まれます。

ノブが完全に戻りきらないときは、下に押し気味にしながら、ノブを左右に僅か回してください。簡単に収まります。



3 フィルムの先をセット位置マークに合わせます。図(点線)のようにパトローネのフィルム口を浮かせないように左手でおさえながら、

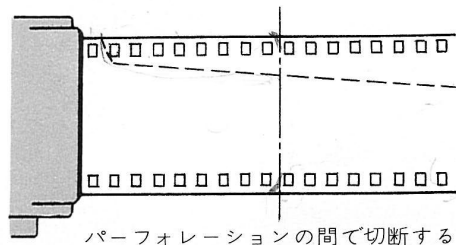


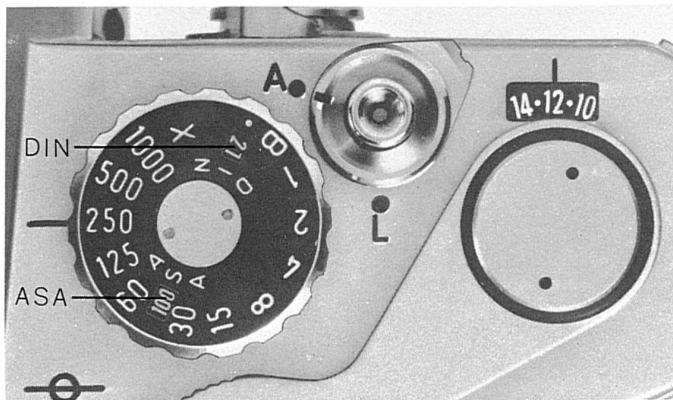
**4** 裏蓋を半ば閉じると、  
QL カバーがフィルムをおさえ、  
スプロケット窓でフィルムが正しくかかっている  
かどうかを確認します。

**5** 裏蓋を閉じます。  
裏蓋が浮上らぬよう押さえて、開閉つま  
みを回してください。

**6** 3回空写し  
レンズキャップをかぶせたまま、巻上げて  
シャッターを切る操作を3回繰り返してください。  
(空写しといいます)フィルムカウンターのマーク  
はSから0になり、次に巻上げると1枚目を表わ  
す(・)に進み撮影準備ができます。

※暗室装填用長巻きフィルムを使用するときは、リーダー部  
の先端を必ず巻取り方向にカーリングをつけ下図のよう  
に切断してください。





## フィルムの感度表示

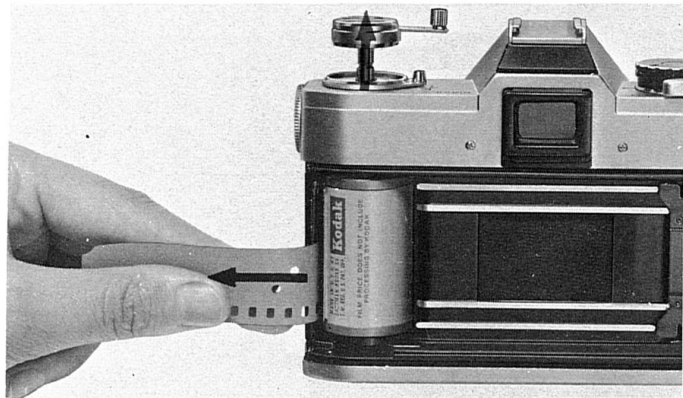
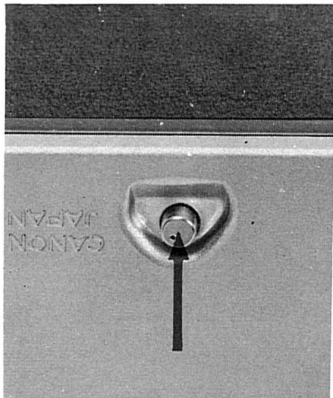
フィルムの装填をしたときは、忘れずにそのフィルム感度を、シャッターダイアルの小窓に表示しておきます。セットのしかたは16頁のフィルム感度の合わせ方をごらんください。

- これを怠るとメーターによる適正露出が得られなくなります。

## “正しいフィルム装填”の確認

巻上げをするたびに、巻戻しノブが反時計方向に回ればフィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければフィルムにたるみがあるか、スプロケットにパーフォレーションがかかっていない場合です。

巻戻しノブを回してたるみを取り、またはフィルムが送られていないときは一旦巻戻し(28頁)てから装填しなおします。



## フィルムの巻戻し

フィルムが終りになると巻上げができなくなりますから、つぎの順序にしたがってフィルムを直ちにパトローネに巻戻します。撮影されたフィルムはカメラの中で裸のまま巻取られていますから巻戻さずに裏蓋を開くと全部無駄になります。ご注意ください。

**1** 巻戻しボタンを押しこむ

**2** クランクで巻戻す

巻戻しクランクを引起し、矢印方向に回し、フィルムをパトローネに巻戻します。

巻戻し中、巻戻しボタンの回転が止まったら(巻戻し抵抗が軽くなる)直ちに巻戻しを止めます。

**3** 裏蓋を開き

**4** パトローネを取出します

巻戻しノブを十分引上げてください。

- 巻戻しボタンは、一度押したなら指を離してもさしつかえありません。レバーを巻上げると、このボタンは自動的に戻ります。
- フィルムが終りになっているのに無理に巻上げるとフィルムがパトローネ軸から外れたり、切れたりして巻戻しができなくなります。ご注意ください。この際には、暗室へ入ってから裏蓋を開くようにします。



## セルフタイマーと撮影

シャッターを巻上げます。

セルフタイマーレバーを矢印方向に回し、シャッターボタンを押してください。

- 約10秒後にシャッターが作動します。
- セルフタイマーレバーは必ず一杯に巻上げてください。
- シャッターの巻上げを忘れ、セルフタイマーのみを巻上げてシャッターボタンを押すと、セルフタイマーだけが作動して、シャッターが切れませんからご注意ください。

- セルフタイマーレバーは巻上げ後、直ちに定位位置に戻して測光に使用することができます。

アクセサリシューにさしこむ



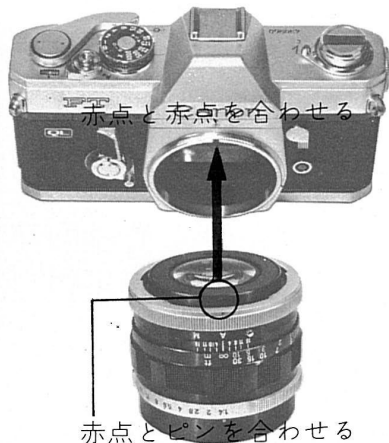
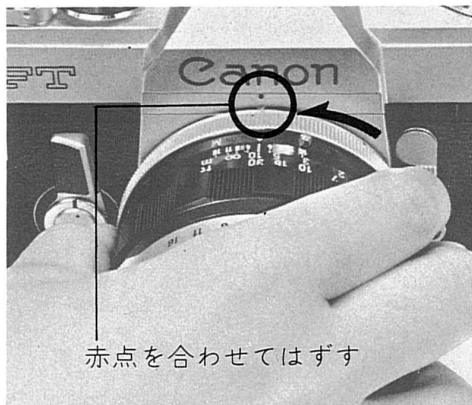
## フラッシュ同調

カメラのフラッシュターミナルにフラッシュユニットまたはスピードライトのコードを接続して、右表の各シャッタースピードで同調撮影ができます。

- X印の部分は使用できません。
- フラッシュ撮影の場合もレンズフードは有効です。
- X接点のシャッタースピードは1/60秒に相当します。
- フラッシュターミナルは JIS B型です。

フラッシュバルブ		同 調 範 囲												
		1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	X
FP	級	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×
M	級	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
MF	級	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×
スピードライト		×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○

Xの部分は使用できません



## レンズの取扱い

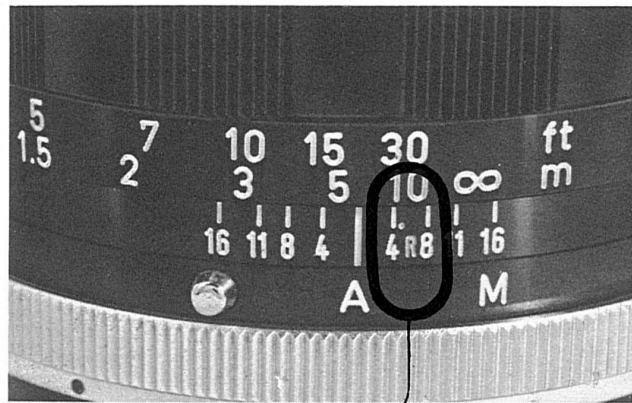
### レンズ交換

カメラからレンズをはずすには、レンズのバヨネットリングを左回しに回したのち、レンズを前方に引出します。

レンズを取付けるには、カメラのマウント部の赤点にレンズの赤点を合わせてはめこみ、バヨネットリングを右に回して締付けます。

- レンズ交換のさい、測光レバーがロックされたままの状態であるかどうかを確認してください。ロックされたままの状態ですとレンズのプリセット絞りの作動レバーが、ボディの連動部に連

- 結しない位置になり、自動絞りがはたらかなくなります。ご注意ください。このときボディ連動部には不作動を知らせる赤丸指標が見えます。
- レンズ交換には必ず測光レバーを解除すること。
- 取付けのさいレンズのバヨネットリングを十分に左に回してガイドピンに赤点を重ねるようにしておきます。
  - レンズの交換をするときはカメラを強い光線に向けてはいけません。なるべく光線の弱い場所で、すばやく交換取付けを行ってください。レンズの先端にはプリセット絞りの作動レバーが



あります。このレバーは絞りを開閉する大切な部分ですから、レンズを外したときは、必ず底蓋をかぶせて保護することを忘れないでください。

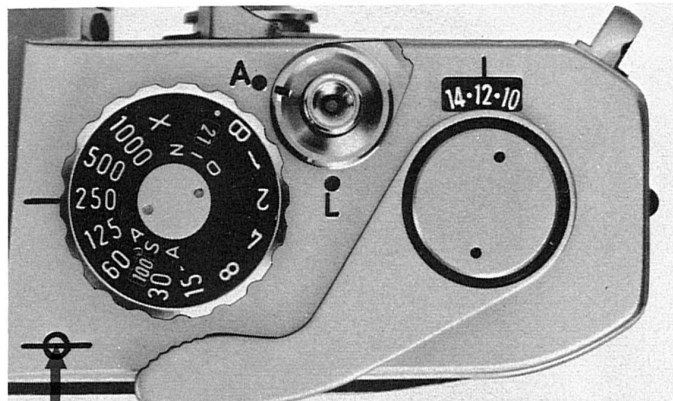
- ・レンズを取外したさい、絞りの連動部に指先をふれないようご注意ください。長く使用しないときにはカメラ蓋をかぶせて保護してください。
- レンズの泡は明るさを何百分の一か何千分の一か減らすことにはなりますが、この程度では撮影上、全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何ら影響がありません。

### 距離目盛

距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。普通の撮影では必ずしも必要ありませんが、被写界深度を知る場合や赤外撮影あるいはフラッシュ撮影などに必要です。

目盛は1桁数字の距離ではその文字の中心、2桁数字では2つの文字の間、3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています。





## 赤外指標 R（赤外マーク）

赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれますから修正しなければなりません。

まず普通にピントを合わせます。その距離目盛を赤外指標 R に合わせます。

たとえば、ピントを合わせて距離目盛が 10m とすると、この 10 の目盛を R の位置までずらせばよいわけです。

### ・赤外指標

R の位置は  $800\text{m}\mu$  程度の波長に最大感度をもつフ

ィルムと赤外フィルター（たとえばコダック IR 135 フィルムとラッテン 87 フィルター）を用いる場合を標準にして目盛っております。

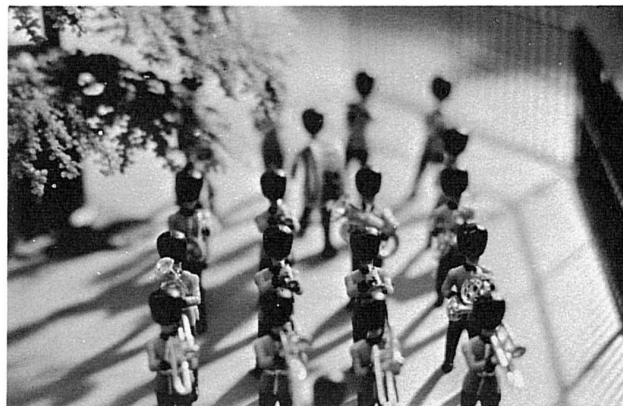
### フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛っております。したがって、実測によってピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測って、その距離をレンズの目盛にうつします。



## 被写界深度目盛

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。



F 8 に絞った場合



被写界深度目盛の使い方は、たとえば 50mm レンズで 3 m の距離にある被写体にピントを合わせ、F 8 の絞りを使うとすれば、距離指標の両側にある 8 の目盛に対応する距離目盛、すなわち約 2.3m と約 4.3m とを読みとります。そしてこの間にある被写体が鮮明であることを目盛から知るわけです。



F16に絞った場合

同じくF16に絞れば約1.9mから7.6mまで鮮明に写ることがわかります。

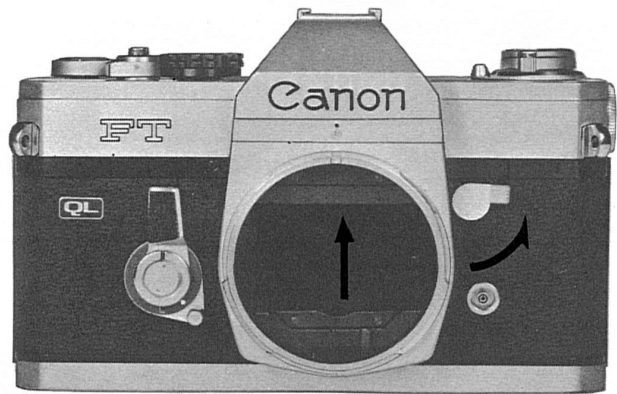
被写界深度はレンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。

キャノン FT では手動絞りをを用いることにより、被写界深度をファインダーを通してしらべることができます。

## レンズマウント (FLレンズとRレンズ)

キャノン FT のレンズマウントは、ペリックス QL, ペリックス, FX, FP と同一ですからペリックス QL, ペリックス専用の広角レンズ FLP 38mm F2.8 をのぞく FL レンズが使用可能です。

また従来のキャノンフレックス用 R 交換レンズは全部取付け使用が可能ですが、自動絞り機構が異なるため撮影は手動絞りで行うことになります。

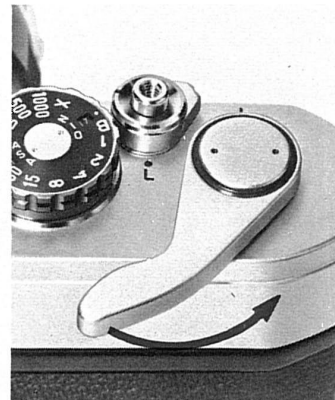
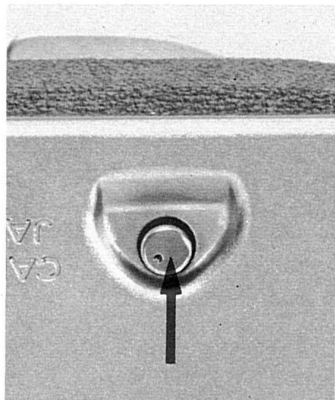


## ミラーの上方固定

このカメラに用意されているFL19mm F3.5 超広角レンズを使用する場合にミラーを上方に固定させておく装置です。最も簡単かつ確実な方法がとられています。

- レンズを取付ける前に、ミラーロックレバーを矢印方向に回します。これによってミラーはピントガラス面下に固定されます。その後でレンズを取付け、ミラーを固定したまま使用します。
- レンズの取付けは日かげで、す早く行ってください。レンズを取付けずに放置するとフィルムにかぶりを生ずるおそれがあります。ご注意ください。
- ミラーロックはシャッターの巻上げ、シャッタースピードに関係なく行うことができ、フィルムの無駄送りがありません。

- ミラーロックは自動絞りによる一般撮影には使用しないでください。使用する必要が生じたときはプリセット絞りを解除して手動により撮影してください。
- ミラーロックを行ったときは、一眼としての機能を失いますから、別に19mm専用ファインダーが必要になります。また距離合わせが目測になります。
- ミラーロックの状態では、レンズに必ずキャップをしておくこと、キャップなしで不用意に太陽に向けると、シャッター幕に焼孔を生じます。ご注意ください。
- ミラーロック装置を利用したあとは、必ずミラーロックレバーを元の位置まで戻してください。



## 二重露出

キヤノン FT は通常の取扱いでは二重露出防止になっていますが、必要に応じてつぎのようにすれば二重露出撮影ができます。

- 1 第1回目の露出が終わったら、巻戻しボタンを押します。
- 2 巻戻しボタンの指標を見ながら、巻戻しクランクでフィルムを巻戻し、
- 3 指標が $\frac{3}{4}$ 回転したならば巻戻しを止めます。

**4** ついで巻戻しクランクを軽くおさえたまま、レバーの巻上げを行い、巻戻しクランクに抵抗を感じたら一旦両方の手をはなします。

**5** それから普通に巻上げをします。  
以上の操作を繰返すと同一フィルム面上に何回でも露出することができます。ただしフィルムカウンターは巻上げごとに進みます。

- 巻戻しのさい巻戻しボタンが $\frac{3}{4}$ 回転を越えないことが大切です。

## キヤノンフィルターのおすすめ

48 mm (FL 50 mm F1.8用) 58 mm (FL 50 mm F1.4 F3.5, 55mm F1.2用)ねじこみフィルターが各種用意されており、黒白フィルム・カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

キヤノン FT の露出計は、キヤノンの誇る新 TTL 方式ですから、露出倍数の補正は全く必要ありません。撮影効果をより高めるキヤノンフィルターをぜひお備えください。

種 類	フ ィ ル タ ー 効 果
UV(SL 39・3C) 黒白, カラー共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜、高山などの紫外線の多い所では特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。</li> </ul>
Y1(SY 44・2C) } Y3(SY 50・2C) } 黒白用 G1(MG 55C) } O1(SO 56・2C) }	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒白フィルムを利用して、写すもののコントラストを強めます、海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。</li> <li>赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。</li> <li>青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。</li> </ul>
R1(SR 60・2C) 黒白, 赤外共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。</li> </ul>
スカイライト } ND4 ND8 } 黒白, カラー共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。</li> <li>ND4 は 1/4, ND8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。</li> </ul>
カラーコンバージョン A(12相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>タングステンタイプフィルムの転換用。</li> </ul>
カラーコンバージョン B(12相当)	<ul style="list-style-type: none"> <li>デイライトタイプフィルムの転換用。</li> </ul>
カラーコンバージョン A4	<ul style="list-style-type: none"> <li>曇天用。</li> </ul>
カラーコンバージョン B4	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝夕用。</li> </ul>
カラーコンバージョン A8	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルタイプフィルムの曇天用。</li> </ul>
カラーコンバージョン B8	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工光フラッシュ用。</li> </ul>

カメラの保存：カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまいこんで放置しておくと、シミや錆を生ずることがあります。むしろ、しばしば使用して外気に触れさせる方がよいのです。

保存の場合は、水銀電池をぬき、さらにケースからはずしておいてください。

カメラの手入れ：野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったあとは、気付かなくても水滴や塩分を受けてシミや錆を生じたり、レンズのヤケや腐蝕をおこします。そのようなときには柔い刷毛で埃を払い、乾いた柔い布で丁寧に拭いてください。



## カメラの保存と手入れ

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのプロワーで吹飛ばすか、柔い刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。

やむをえないときは洗いさらした柔い清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール(エーテルを少量まぜればなお可)をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。

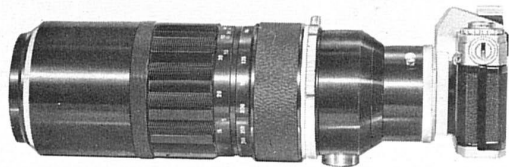
カメラを海中に落したときは、ほとんど修理不可能になります。この場合はカメラ材料店もしくは弊社サービスステーションにご相談ください。カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係

の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることが出来ます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるような心づかいをおすすめします。

極寒地では、カメラを撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずすみませす。撮影に取出す場合、除々に外気に触れさせないと水分の凝結でレンズが曇り、撮影できないことがあります。

使用しないときは、レンズの保護のため、レンズキャップをつけてください。水銀電池の消耗を防ぐことにもなります。

キヤノン FT には、最高の撮影効果を期待できる専用の FL 交換レンズ群が豊富に完備しています。性能を十二分に発揮させるためにもぜひ専用の FL レンズをご使用ください。



## FL 交換レンズ群

FL 19mm	F 3.5R (レトロフォーカス)	45,000円
FL 19mm	F 3.5 (専用ファインダー付)	45,000円
FL 28mm	F 3.5	22,600円
FL 35mm	F 2.5	19,400円
FL 50mm	F 1.4	21,800円
FL 50mm	F 1.8	12,800円
FL 50mm	F 3.5 (マクロレンズ)	28,900円
FL 55mm	F 1.2	36,300円
FL 85mm	F 1.8	24,500円
FL 100mm	F 3.5	16,500円
FLM100mm	F 4 (ベローズ専用マクロレンズ)	16,100円
FL 135mm	F 2.5	24,500円
FL 200mm	F 3.5 (組込みフード)	29,500円

R 300mm	F 4	73,500円
R 400mm	F 4.5	109,000円
R 600mm	F 5.6	124,900円
R 800mm	F 8	134,900円
R 1000mm	F 11	130,000円

### キヤノン FL ズームレンズ

FL 55mm~135mm	F 3.5	48,900円
FL 85mm~300mm	F 5 (組込みフード)	99,500円

### FL コンパクトレンズ

FL 35mm	F 3.5	13,200円
FL 135mm	F 3.5	16,900円
FL 200mm	F 4.5 (組込みフード)	19,900円
FL 100mm~200mm	F 5.6 (組込みフード)	29,900円

### FL-F (蛍石レンズ)

FL-F 300mm	F 5.6 (ケース付)	100,000円
FL-F 500mm	F 5.6 (セット)	192,000円

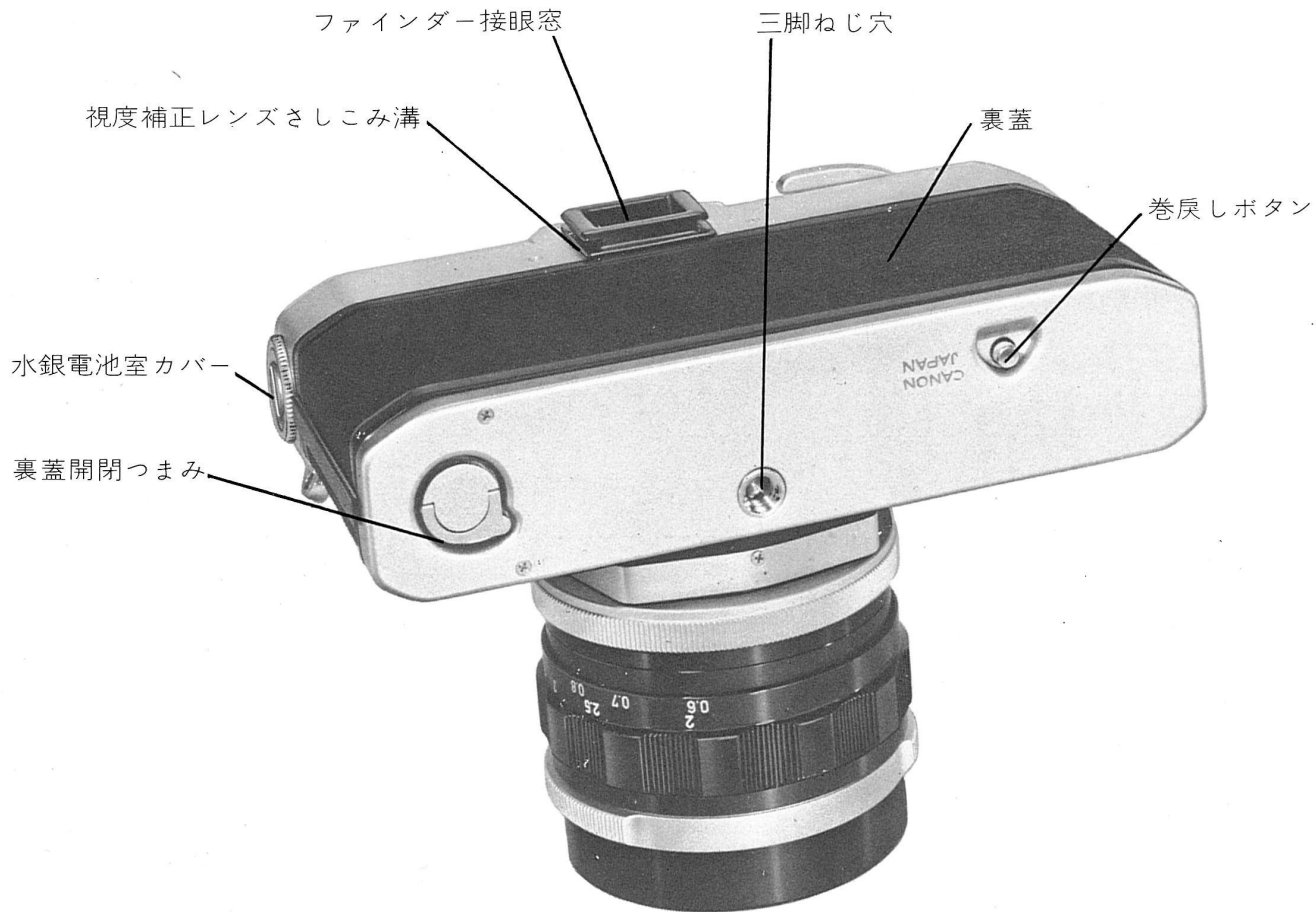


# アクセサリ



ブースター (超高感度補助メーター) 9,800円  
 ベローズ FL 14,000円  
 ベローズ M 5,500円  
 スライドデュプリケーター (複製装置) 4,500円  
 マクロフォトカプラー FL 48 FL 58 各 4,500円  
 エクステンションチューブ FL 15 2,500円  
 エクステンションチューブ FL 25 2,500円  
 エクステンションチューブ M セット 3,600円  
 (M 5 10 20 20)  
 フィルター 48mm 黒白用 900円, カラー用 900円  
 58mm 黒白用 1,600円, カラー用 1,600円  
 アンクルファインダー A 3,900円  
 (旧ウエストレレビューワー 2 型)  
 レンズフード S-60 1,200円, S-50 800円  
 スピードライト 200 (一式) 15,000円  
 スピードライト 102 (一式) 7,400円

フラッシュ V-3 (ケース付) 3,500円  
 フラッシュクイント 2,950円  
 ハンディスタンド F (一式) 4,900円  
 複写装置 3F 13,150円  
 フォトマイクロユニット F (簡易顕写装置) 3,500円  
 58mm クローズアップレンズ 240, 450, 1,800 各 2,000円  
 48mm クローズアップレンズ 240, 450 各 1,800円  
 カメラホルダー R4 2,000円  
 キャノンレリーズ 28 250円  
 " 30 550円  
 " 50 800円  
 マイクロフォトフード 1,200円  
 ギャゼットバッグ 4 型 3,500円



微光量下の被写体を完全測光するキャノン  
ブースター 価格 9,800円 (ケース付)



性 能

CdS 受光体：FTに組込まれたものを利用する。

測光範囲：EV マイナス 3.5～2.5 < ASA 100・F1.2  
15秒～1/4秒 >

フィルム感度：ASA 20～12,800

測光方式：ゼロ点調節，露出時間読取り式。

シャッター目盛：FT用 30～1/60秒。

照明ランプ：メーター表示窓の照明用ランプあり  
カメラ側の電源を利用。

電 源：水銀電池 1.3V 2コ使用。

電源チェッカー：切換えスイッチ兼用。

大きさ／重量：65×45×39 mm／180 g

# キヤノン株式会社

## キヤノンカメラ販売株式会社

東京都中央区銀座5-9-9 〒104 ☎ (03) 572-4251

東京営業所・(105) 東京都港区芝公園11-6-2 (03) 432-8111  
〃 横浜分室・(231) 横浜市中区弁天通り2-26 (045) 201-2176  
銀座サービスステーション・(104) 東京都中央区銀座5-9-9 (吹原ビル1階) (03) 572-4251  
横浜サービスステーション・(231) 横浜市中区桜木町1-1 (コールドンセンタービル1階) (045) 201-7348  
大阪営業所・(541) 大阪市東区瓦町5-39 (大阪化繊会館3階) (06) 202-6761  
大阪サービスステーション・(530) 大阪市北区梅田2 (第一生命ビル2階) (06) 341-9335

### 営業所・サービスステーション

札幌・(060) 札幌市北三条西4-1 (第一生命ビル4階) (0122) 23-1313  
仙台・(980) 仙台市一番町3丁目1番1号 (富士ビル8階) (0222) 22-1571  
新潟・(950) 新潟市東大通1-23 (マルタケビル7階) (0252) 46-0131~3  
静岡・(420) 静岡市鷹匠町2-3-6 (静米会館1階) (0542) 55-2241  
名古屋・(450) 名古屋市中村区堀内町4-1 (毎日会館2階) (052) 581-3811  
広島・(730) 広島市熾町14-11 (0822) 21-4615~6  
福岡・(810) 福岡市天神1-11-17 (福岡ビル9階) (092) 74-8431

